

會 告

■其後入會者左の如し

和歌山市本町七丁目六番地

贊 島村安三郎

群馬縣富岡町上町飯塚方

贊 柴崎 享

■別項廣告欄に有之候通り、水彩畫講習所に於ては、通信教授の方法を設け、丸山氏主として其任にあたるものと致候

■右は地方有志の切なる要求に應じて新に計畫せしものに候へども、同時に本會々員の作品添削を廢せしをこれにて補はん爲めに候

■本會々員にして、地方講習生たらんとするには、別に記名料を要せず候

■會員徽章の意匠は只今丸山氏の手にて考案中、そのうち出來可致候に付、今少々御猶豫下されたく候

■水彩畫講習所は漸次擴張の筈にて、今回規定の一部を改正致候猶新に地方講習生の規定を設け候

■十軒店教場へは、新に河合新藏氏講師として時々出席致さるゝ筈に候。教室廣く餘

席澤山有之、此際有志の士の入會を希望致候

□地方に在て、版畫のほか肉筆の水彩畫を見しとなき人々の爲め、又臨本或は參考として望まるゝ人の爲めに、河合丸山大下三氏に囑して、小水彩畫を頒つものと致候、精しくは廣告欄を御覽下され度候

□下谷白眼生氏は、文房堂營業について一書を寄せられ候、同店は本會に於て、會員の爲め特約割引等致させ居候事故、早速店主に對し不都合なきやう交渉致置候。猶會員及讀者諸君のうち御意見ある方は、自他の爲め御投書あり度希望致候

□次號には、本號續稿のほか、石川欽一郎氏の色彩の話、丸山晚霞氏の樂しき一日、石井栢亭氏の關西美術會展覽會所感等掲出致すべく候

◎本年度中等教員豫備試驗自在畫問題は左の如し(大橋三平氏所報)

臨畫 讀書(これは二人の女子讀書をなす所)

新案畫 屈曲せる平遠なる街道の圖を作れ(但六本以上の電柱を畫き其一柱は畫

者に接近するを要す、遠山及人馬の往來あるべし)

右三時間

評

◎水彩風景千紫萬紅(下)

丸山晚霞筆

日本橋通二丁目 松聲堂發行

石版刷六枚一組 金三十錢

櫻、桃、李、菜の花、藤、秋草等何れも麗なる色彩にしく印刷又あしからず丸山氏の花を描くに巧なるは世已に定評あり初學者の參考畫として適當なる繪ハガキなるべし(KSK)

◎寫真例題集 三十一卷

大阪心齋橋通 桑田商會發行

コロタイプ寫真版十葉三十錢

奥田氏の『雨後の深山』身は其境にあるが如く、高田氏の『漁船』タテ畫として如何のものにや、山下氏の『朝霧昇天』は鮮明の出來、津曲氏の『海のもの曉色』主眼何處なりや圖の統一なきは憾むべし、平井氏の『路傍の馬』面白く、大西氏の『漁り』は心地よき出來なり、從來單に關西地方の風景のみ紹介されしが、漸く關東方面の印畫を見るは嬉しきとなり。